



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/25 (月)	+ 500	+ 2,400	+ 2,900	流動性供給 国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 社債等買入 +2,200 ▲400		
5/26 (火)	+ 500	▲ 2,000	▲ 1,500				米：消費者信頼感指数 (5月)
5/27 (水)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000		共通担保 ▲ 8,000		日：植田日銀総裁が日銀金融研究所 2026年国際コンファレンスであいさつ
5/28 (木)	+ 500	▲ 2,000	▲ 1,500	国債発行 (40年)			米：GDP (1Q) PCE (4月) 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (5月)
5/29 (金)	+ 400	▲ 10,700	▲ 10,300				日：外国為替平衡操作の実施状況 (4月28日~5月27日) 失業率 (4月) 小売売上高 (4月) 住宅着工件数 (4月) 米：ポウマンFRB副議長がレイキャピタル経済会議で講演

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,400億円増加の453兆3,300億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、22日は451兆4,200億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.728%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.731%~0.860%のレンジ、1M~3M物0.990%~1.100%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では27日に日銀金融研究所 2026年国際コンファレンスでの植田総裁の挨拶、29日に外国為替平衡操作の実施状況 (4月28日~5月27日) や失業率 (4月) の公表、海外では28日に米GDP (1Q) の公表、29日にレイキャピタル経済会議でのポウマンFRB副議長の講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.85 ~ 1.00
2M	0.95 ~ 1.05
3M	1.05 ~ 1.15
6M	1.20 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。買入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~482回債、5年155~184回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~89回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は1兆3,295億円で、週間償還額の1兆1,695億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆8,402億円から、5月21日時点で24兆1,619億円へと増加した。発行市場では、小売業・化学業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.7%台から1.0%程度、3ヶ月物で1.0%台から1.3%程度と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約3兆円となっている。発行市場は、月末の大量償還に伴い、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が改めて利上げに前向きな姿勢を示していることを受け、次回の利上げ時期を見極めようとする動きから、引き続き水準を探る展開となる見通し。

<TDB>

19日の1Y (第1382回債) の入札は、最高落札利回り1.1429% (前回債1.1101%)、平均落札利回り1.1357% (前回債1.1071%) となった。

22日の3M (第1383回債) の入札は、最高落札利回り0.8904% (前回債0.8803%)、平均落札利回り0.8839% (前回債0.8706%) となった。

来週の入札は29日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。